

平成30年度事務事業評価シート(29年度実績)

◎基本情報

Table with columns for 事務事業名 (ごみ減量対策事業), 担当部署 (市民環境部), 総合計画体系 (基本政策, 政策, 施策, 基本事業), 根拠法令 (廃棄物の処理及び清掃に関する法律), 事業期間 (開始: 平成11年度, 終期: 未定)

◎事業概要(PLAN)

Table with columns for 事業対象 (個人, 世帯, 団体, その他, 内部管理), 事業目標 (EMボカシの無料配布やコンポストの斡旋...), 事業計画 (29年度に何を計画していたか), 成果目標 (事業目標の達成度合) with a table for 指標名 (全体のごみ排出量) and years (28-32年度).

◎実施結果(DO)

Table with columns for 事業実施内容 (29年度は目標を達成するため...), 事業実施手法 (市実施, 補助金), 指標名 (EMボカシ無料配布, コンポスト斡旋...), 活動指標 (1, 2), 成果指標 (全体のごみ排出量), 今年度の進捗状況 (ほぼ計画どおり), 事業全体の進捗状況 (計画どおり)

(千円)

Table for 財源内訳 (財源内訳) with columns for 年度 (平成29年度), 区分 (当初予算額, 補正予算額, 繰越予算額, 全体予算額, 決算額, 繰越額), 国, 県, 地方債, その他特定財源, 一般財源, 事業費計, 人件費 (正規職員, 臨時職員, 総人件費, 総事業費)

事業費推移	年度	28年度決算	29年度決算	30年度	31年度	32年度
	事業費	44,207	41,804	49,713	49,713	49,713
	うち一般財源	0	0	0	0	0
	人件費	5,706	5,787	5,787	5,787	5,787
	総事業費	49,913	47,591	55,500	55,500	55,500

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		各家庭での取り組みや小学校での学習を通じて、ごみ減量への意識向上を図ることができた。
	効率性	B:概ね効率的だった		継続した事業でもあり、効率的な処理、運用の手法は確立されている。
②成果に対する評価	指標名	全体のごみ排出量(資源ごみ集団回収を除く)		ごみ減量のための補助制度と啓発活動を行ってきた結果、全体のごみ排出量は減少し、おおむね目標達成となった。
	目標	17,540	t	
	実績	17,707	t	
	評価	B:概ね目標を達成できた		
③総合的な評価		<b>B</b>		ごみ排出量は減少し、おおむね目標は達成することができたが、コンポスト、電気式生ごみ処理機の購入補助制度の利用者数は減少していることから、総合的な評価はB評価とする。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	コンポスト、電気式生ごみ処理機の購入補助制度の利用者数について、一定数の利用は継続してあるものの減少傾向が見られるため、継続した広報活動により利用者増加への取り組みを強化する必要がある。 さらなるごみ減量に向けて各家庭における意識向上が図られるよう、今後も取り組みを進めていく必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	<b>3</b>
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H30年度	現在の事業を継続していくことに加えて、ごみ分別ガイドブックを改訂、全戸配布を行い、生ごみの水切りや雑がみ回収についても啓発していく。また、新しいガイドブックを活用し、各地域団体へ出向いて説明と啓発を行い、ごみ減量に向けた取り組みがより一層強化できるよう働きかけていく。			
	H31年度	同上			